

第7回包装近未来シンポジウム

— 脱炭素に向けて包装は今後どう取り組むべきか —

- 開催日：令和2年3月24日(火)
- 会場：CIVI研修センター秋葉原 D205ホール
- 主催：公益社団法人日本包装技術協会

開催にあたって

今回のシンポジウムでは、異常気候が多発する昨今、気候変動の現状について科学的な評価を概観し、脱炭素に対して包装はどのように対応しているか、今後どう対応すべきかを斯界の専門家のお話の中から模索します。サステナビリティ、具体的なネスレの事例、再生再利用に向けたプラスチックのケミカルリサイクル、2030年の包装の予測などでプログラムを編成しており、更にパネルディスカッションで、具体的に今後の包装の対応を討議し、脱炭素の包装普及を目指したいと考えます。どうぞこの機会に関係各位奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

講演者・パネリストの紹介

■江守 正多(エモリ セイタ)氏

国立研究開発法人 国立環境研究所 地球環境研究センター副センター長

1970年 神奈川県生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了 博士(学術)。

1997年より 国立環境研究所に勤務

2018年より 同副研究センター長

2016年より 低炭素研究プログラム総括、社会対話・協働推進オフィス代表(すべて兼務)。

専門は地球温暖化の将来予測とリスク論
気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次・第6次評価報告書主執筆者
(著書)「異常気象と人類の選択」「地球温暖化の予測は『正しい』か? -不確かな未来に科学が挑む」

■阿部 純一(アベ ジュンイチ)氏

ネスレ日本株式会社 コーポレートアフェアーズ統括部

コーポレートコミュニケーション室 室長

外資系と日本企業でマーケティング、広報、経営企画等を担当した後、2014年にネスレ日本入社。

現在に至る。

■橋本 則夫(ハシモト ノリオ)氏

株式会社 湘南貿易 代表取締役

機械専門商社で経験と実績を重ね、1997年11月(株)湘南貿易を設立。ヨーロッパより特徴あるフィルム製膜関連装置の輸入に特化する。2000年より別法人としてエレマジャパン(株)を設立し、プラスチックの再生技術の紹介をスタートする。横浜グリーン購入ネットワーク監査

■橋本 香奈(ハシモト カナ)氏

大和製罐株式会社 技術開発センター 軟包装容器開発室

1992年 大和製罐株式会社に入社 総合研究所配属

レトルト用プラスチック容器研究開発等に従事

2013年 技術管理部 新規事業室配属 C V S向けの食品容器設計等に従事

2018年 技術開発センター 軟包装容器開発室配属 ベンチャー企業との共同研究開発を推進

技術士(経営工学部門) 包装専士(食品包装)

技術士包装物流会理事/日本包装専士会理事/「包装技術」

編集委員副委員長(2017年度~2018年度)

■後藤 敏彦(ゴトウ トシヒコ)氏(企画委員)

特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事

認定NPO法人環境経営学会会長、(一社)グローバル・コンバクト・ネットワーク・ジャパン理事、NPO法人日本サステナブル投資フォーラム理事・最高顧問、(一社)グリーンファイナンス推進機構理事、など。

環境省事業//環境情報開示基盤整備事業WG座長/環境コミュニケーション大賞審査委員/日中韓三カ国環境大臣会合(TEM)付設環境産業円卓会議(TREB)团长/環境DDの手引き検討会委員長など複数委員会の座長・委員を務める。東京大学法学部卒
著書多数

■住本 充弘(スミモト ミツヒロ)氏(企画委員)

住本技術士事務所 所長

2004年1月 大日本印刷(株)を定年退職し、以後コンサルタント活動に入る。世界の包装展視察や世界の企業の包装コンサルタント活動や国内企業のコンサルタント活動を続けている。

日本技術士会会員、技術士包装物流会会員、日本包装学会会員、日本包装コンサルタント協会会員、日本包装管理士会会員

技術士(経営工学)、包装管理士、業界誌に執筆多数

■森 泰正(モリ ヤスマサ)氏(企画委員)

株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長

1972年~2009年 三井・デュポン ポリケミカル(株)勤務

1988年~1990年 米国デュポン社 パッケージング事業部門に出向

2009年~2017年 三井物産(株) パッケージング・シニアアドバイザー

2015年1月 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパンを有田氏(現有田技術士事務所 所長)

より承継、現在に至る

海外と日本の最新パッケージング技術の融合を目指す活動を行っている

プログラム

時間	テーマ	講演者
10:00 11:00	<p>「気候変動リスクと「卒炭素」への道</p> <p>2015年末に国連気候変動枠組条約のCOP21で採択された「パリ協定」で、世界平均気温上昇を産業化以前を基準として2℃より十分低く保ち、さらに1.5℃より低く抑える努力を追求することが合意された。これを実現するためには、世界の温室効果ガス排出量を今世紀後半に正味でほぼゼロにする必要がある。温室効果ガス排出の主要部分はエネルギー起源の二酸化炭素であるから、これは化石燃料に依存しない社会（脱炭素社会）を今世紀中に実現するという国際社会の決意を意味している。</p> <p>本講演では、地球温暖化の現状、将来予測、リスクについての科学的な評価を概観した後、脱炭素という課題に私たちがどう向き合っていくべきかを考える。</p>	<p>国立研究開発法人 国立環境研究所 地球環境研究センター 副センター長 江守 正多 氏</p>
11:10 12:10	<p>「サステナビリティに対して日本企業はどう対応すべきか」 ～中長期ビジョン、戦略策定の必要性～</p> <p>気候変動、プラスチック問題等、様々な問題や、AI、IoT、デジタルトランスフォーメーション(DX)などビジネスモデルの見直しが急務の今、パラダイムシフトを促進するドライビングフォースとしてESG金融（投資・融資・保険）が動き出している。TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の勧告（提言）に対する対応も迫られている。気候変動に対してはこれまでの「緩和」だけでなく「適応」に直ちに取り組むひつようがあることと、TCFDに対応するためには中長期のビジョンと戦略策定が必要になる。「企業の中長期の発展戦略」、「SDGs対応戦略」、「TCFD対応戦略」の一本化がなされないとそれぞれが「絵に描いた餅」になりかねない。</p>	<p>特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 後藤 敏彦 氏</p>
13:10 13:40	<p>「ネスレのパーパス(存在意義)－CSV(共通価値の創造)の実践－」</p> <p>ネスレの創業から、パーパス「生活の質を高め、さらに健康な未来づくりに貢献します」という概念が打ち出されるまでのストーリーを説明します。パーパスを実現するための手段としてのCSVの実践、そして事例紹介をお話しし、その一例として日本の「キットカット」のパッケージについて紹介します。</p>	<p>ネスレ日本株式会社 コーポレートアフェアーズ統括部 コーポレートコミュニケーション室 室長 阿部 純一 氏</p>

企画委員

本シンポジウムは下記企画委員の皆様のご協力により開催しております。

- 後藤 敏彦 氏 特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事
- 住本 充弘 氏 住本技術士事務所 所長
- 森 泰正 氏 株式会社パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長

時 間	テ ー マ	講 演 者
13:50 14:20	<p>「欧州および日本におけるプラスチックのマテリアル・ケミカルリサイクルの動向並びにその一端を担うエレマの技術の特徴について」</p> <p>プラスチック再生機械の分野において世界トップメーカーであるEREMA社の視点で捉えたヨーロッパの現状を説明するとともに、そこに使用される技術及びリサイクルされたプラスチックの使用用途を紹介しします。そのうえで、現状課題として残る複合材料に関して、油化、ガス化、および燃焼技術が、どの程度検討され、採用されているかを検証します。</p> <p>また、湘南貿易として取り組んだ現在も生産機として稼働する油化装置の説明を通して、油化、ガス化、燃焼技術の可能性に関して考えてみます。</p>	<p>株式会社湘南貿易 代表取締役 橋本 則夫 氏</p>
14:30 15:00	<p>「(日本包装専士会「2030年の包装未来予測」から見た)資源循環型社会を目指す容器包装の新潮流」</p> <p>日本包装専士会では、TOKYO PACK 2018にて2030年の容器包装の未来予測を行い発表しました。以降、国内外の新技术動向を確認しつつ、容器包装のあるべき姿を模索する活動を続けています。世界で資源循環型を志向する大きな潮流があります。容器包装が廃棄物ではなく、循環する資源原料とみなされると、リサイクルの仕組みの外側に配置された企業も巻き込んだ社会システムの構築が必要となるでしょう。日本ではCLOMAの誕生によって、日本の容器包装の制度設計を見直す良き機会を得ました。3R、バイオプラスチック、紙・セルロース代替について、国内外の新技术を採上げお話しします。資源循環型社会に向けて容器包装のあるべき姿を考える第一歩を踏み出しましょう。</p>	<p>大和製罐株式会社 技術開発センター 軟包装容器開発室 橋本 香奈 氏</p>
15:10 16:40	<p>パネルディスカッション</p> <p>『脱炭素に向けて包装は今後どう取り組むべきか』</p> <p>【司会進行】 住本技術士事務所 所長</p> <p>【パネリスト】 国立研究開発法人国立環境研究所 地球環境研究センター 副センター長 ネスレ日本(株) コーポレートアフェアーズ統括部 コーポレートコミュニケーション室 (株)湘南貿易 代表取締役 大和製罐(株) 技術開発センター 軟包装容器開発室 特定非営利活動法人サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長</p>	<p>住本 充弘 氏(企画委員)</p> <p>江守 正多 氏 阿部 純一 氏 橋本 則夫 氏 橋本 香奈 氏 後藤 敏彦 氏(企画委員) 森 泰正 氏(企画委員)</p>

開催要領

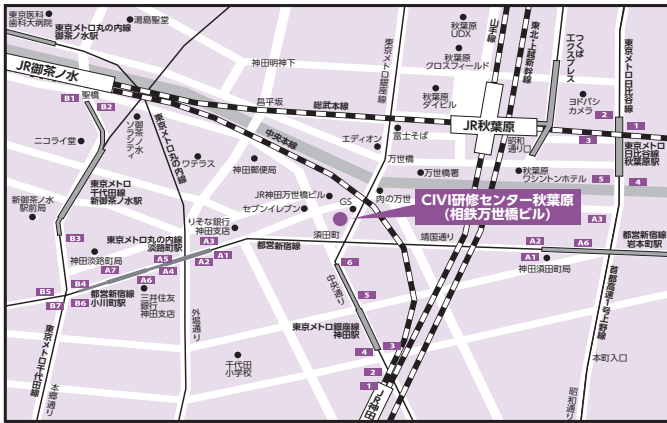
- 日時：令和2年3月24日(火) 10:00~16:40
- 会場：CIVI研修センター秋葉原 D205ホール
東京都千代田区神田須田町1-5-10
CIVIフロント3F

参加費：	1名分参加費 (配布資料代含む)	会員	会員 (3名割引1名あたり)	一般
本体	19,000円	15,000円	15,000円	26,000円
消費税10%	1,900円	1,500円	1,500円	2,600円
税込合計	20,900円	16,500円	16,500円	28,600円

- 定員：100名

会場案内

会場：CIVI研修センター秋葉原 D205ホール
東京都千代田区神田須田町1-5-10
相鉄万世橋ビル3F



- JR秋葉原駅から徒歩5分、JR神田駅から徒歩6分、JR御茶ノ水駅から徒歩8分
- 東京メトロ銀座線神田駅から徒歩3分、東京メトロ丸の内線淡路町駅から徒歩3分
- 東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅から徒歩6分、東京メトロ日比谷線秋葉原駅から徒歩7分
- 都営地下鉄新宿線小川町駅から徒歩3分、都営地下鉄新宿線岩本町駅から徒歩4分
- 首都圏新都市鉄道つくばエクスプレス秋葉原駅から徒歩5分

申し込み方法

- 本紙申込書に必要項目を全て記入の上、FAXにてお申込みください。
協会HPからのお申込みも出来ます。
協会HP：<http://www.jpi.or.jp>
- 申込みされた方には後日参加証と請求書をお送りします。
- 開催1週間前からの参加費の払い戻しは致しません。
申込みされた方がご都合の悪い場合、代理の方の出席は差し支えありません。(当日、名刺をご提出いただきます)

お問合せ並びにお申込み先

公益社団法人日本包装技術協会
包装近未来シンポジウム係 担当：竹内
〒104-0045
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
TEL:03(3543)1189/FAX:03(3543)8970
e-mail: takeuchi@jpi.or.jp

【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「包装近未来シンポジウム」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

第7回包装近未来シンポジウム参加申込書

公益社団法人日本包装技術協会 竹内行 FAX. 03-3543-8970

No. _____

会社名					
所在地	(〒)				
電話			FAX		
参加者	氏名		所属 役職		e-mail
	氏名		所属 役職		e-mail
	氏名		所属 役職		e-mail